

平成27年度第1回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会
会議録

1 日時：平成27年7月1日（水）午前9時31分～11時52分

2 場所：千葉市議会棟 第3委員会室

3 出席者：

（1）委員

大原明保委員（部会長）、河合謹爾委員（副部会長）、善積康夫委員、古賀学委員、
西田直海委員

（2）事務局

鎌田経済農政局長、今井経済部長、柿崎経済企画課長、山崎集客観光課長

4 議題

（1）部会長及び副部会長の選任について

（2）千葉ポートタワーにおける指定管理者総合評価に関する事項について

5 議事の概要：

（1）委員の互選により、大原委員を部会長に、河合委員を副部会長に選任した。

（2）千葉ポートタワーにおける平成26年度の年度評価及び23年度から26年度までの総合評価について審議を行った。

6 会議経過：

【柿崎経済企画課長】 それでは、定刻となりましたので、始めさせていただきます。
本日は、お忙しい中、お集まりいただきまして、まことにありがとうございます。
また、常任委員の皆様におかれましては、親会に引き続き、よろしくお願いいたします。
す。

私は、本日の司会を務めさせていただきます、経済企画課長の柿崎でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、議事に入ります前に、資料の確認をさせていただきます。

配付資料は、一部事前に送付させていただいておりますが、資料1が委員名簿、資料2が本日の議事の流れ、資料3がポートタワー評価資料、そして、参考資料1、2がございます。

また、臨時委員の皆様につきましては、机の上に委嘱状を配付させていただいておりますので、あわせてご確認をお願いいたします。

不足がございましたらお知らせ願います。

続きまして、会議の成立について報告いたします。

本日の出席委員は、総数5名中、全員ご出席いただいておりますので、条例第10条第

2項によりまして会議は成立しております。

次に、会議の公開及び議事録の作成についてですが、お手元の参考資料1「千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会の会議の公開及び議事録の作成等について」をごらんください。

これは、平成22年7月27日の委員会における決定事項でございますが、一番下の段の「3 部会の会議への準用」にございますとおり、部会にも準用されることとなっております。

したがって、「1 会議の公開の取扱い」の(1)のとおり、本日の会議は公開となります。

なお、現在までに傍聴人の申し込みはございませんので、報告いたします。

また、議事録につきましては、「2 議事録の確定」の(1)のとおり、事務局案に対する部会長の承認により確定することとなっておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、開催に当たりまして、経済農政局長の鎌田より、一言ご挨拶を申し上げます。よろしくお願いします。

【鎌田経済農政局長】 皆様、改めまして、おはようございます。経済農政局長の鎌田でございます。

常任委員の皆様、先ほどの委員会に引き続きまして、どうぞよろしくお願いいたします。

皆様には、このたびの委員就任をお引き受けくださいます。誠にありがとうございます。また、本日は、大変ご多忙の中、朝早くからご出席をいただきまして、重ねて御礼を申し上げます。

本日は、委員選任後の最初の観光部会ということで、まず、今期の部会長及び副部会長をご選出いただきたいと存じます。そして、所管施設の評価といたしまして、今年度、指定期間満了を迎える千葉ポートタワーにつきましの総合評価をご審議いただきます。

委員の皆様には、豊富なご経験と専門的なお立場から、忌憚のないご意見を頂戴したいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

甚だ簡単でございますが、開催に当たってのご挨拶とさせていただきます。どうぞよろしくお願いいたします。

【柿崎経済企画課長】 ありがとうございます。

次に、委員の皆様をご紹介します。お手元の資料1、委員名簿をご覧ください。名簿順に委員の皆様をご紹介します。

まず、常任委員からご紹介いたします。

弁護士の大原明保様でございます。

次に、公認会計士の河合謹爾様でございます。

最後に、千葉大学法政経済学部教授の善積康夫様でございます。

次に、当部会の臨時委員を紹介いたします。

松蔭大学観光メディア文化学部教授の古賀学様でございます。

次に、千葉大学非常勤講師の西田直海様でございます。

委員の皆様につきましては、前回から再任をいただいております。

以上の5名の皆様で、どうぞよろしくお願いいたします。

次に、事務局側の職員のご紹介をさせていただきます。

なお、鎌田経済農政局長につきましては、先ほどのご挨拶をもって紹介にかえさせていただきます。

経済部長の今井でございます。

【今井経済部長】 今井でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

【柿崎経済企画課長】 そのほかの職員につきましては、お手元にお配りしております座席表により、ご紹介にかえさせていただきます。

なお、局長の鎌田につきましては、所用のため、ここで退室させていただきます。

【経済農政局長】 どうぞよろしくお願いいたします。

【柿崎経済企画課長】 それでは、議事に入らせていただきます。

なお、部会長選任までの間、私のほうで進行を務めさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、ただいまから平成27年度第1回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を開会させていただきます。

初めに、議題（1）部会長及び副部会長の選任についてです。

部会長及び副部会長につきましては、条例第11条第4項に基づき、委員の皆様の互選により決定したいと存じます。委員の皆様、いかがでございましょうか。

善積委員。

【委員】 私のほうからご推薦申し上げたいと存じます。

これまで会議をまとめていただきましたご経験、ご実績から、部会長には大原委員さん、副部会長には河合委員さんをご推薦申し上げます。

【柿崎経済企画課長】 ありがとうございます。

ただいま善積委員様より、部会長に大原委員さんを、副部会長に河合委員さんというご発言がありましたが、委員の皆様、いかがでございましょうか。よろしいでしょうか。

（「異議なし」の声あり）

【柿崎経済企画課長】 ありがとうございます。それでは、大原委員さんに部会長を、河合委員さんに副部会長をお願いしたいと存じます。

それでは、大原部会長に議事の進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。

【部会長】 引き続き、部会長を引き受けました。今後とも円滑な進行に努力しますので、よろしくご協力のほどお願いします。

それでは、まず、今日の議事の流れについて、事務局より説明をお願いいたします。

【柿崎経済企画課長】 それでは、ご説明させていただきます。

本日は、議事にございますとおり、千葉ポートタワーの総合評価をお願いいたします。総合評価は、指定管理期間最終年度において、過去の評価結果などを踏まえ、指定管理者の管理業務を総括するとともに、次期指定管理者選定に向けた意見を聴取するために

実施するものでございます。

それでは、お手元の資料2「本日の議事の流れについて」、ご覧ください。

初めに、議題（2）ポートタワーの総合評価についてですが、まず、施設所管課である集客観光課から、施設の評価に係る資料についてご説明させていただきます。

その次に、委員の皆様から質疑応答とともに、過年度の総括的な評価や次期指定管理者の選定に向けた意見、それと、26年度の管理運営に対する意見などをいただき、その後、各委員は、市の案を参考にS、A、Bの評価をし、総合評価シートを作成・提出いただきます。

それらを事務局のほうで取りまとめさせていただきまして集計いたしますが、その間は、委員の皆様は、約20分程度ですが、休憩となります。

その後、集計されたものをもとに、評価結果、意見案をお配りいたしますので、内容をご協議いただき、最終的な部会の意見として決定していただければと存じます。

なお、総合評価につきましても、年度評価と同様、委員会として市に答申いただくとともに、ホームページなどで公開されますので、ご了解いただければと思います。

説明は以上でございます。

【部会長】 それでは、議題（2）千葉ポートタワーにおける指定管理者総合評価に関する事項についてに入ります。

事務局より説明をお願いいたします。

【山崎集客観光課長】 集客観光課長の山崎でございます。

まず最初に、申しわけありません、説明に当たり、こちらの評価資料に訂正がございましたので、訂正をお願いします。

まず、上から2つ目のインデックスの一番最初の左側に、個人情報保護規定等の遵守と書いてあると思いますけれども、この「定」ですけれども、定めるではなくて、日程とかの「程」ということで、訂正をお願いいたします。

それから、上から3つ目のインデックス、評価シートというのがあると思いますけれども、こちらのほうを1枚めくっていただいて下段に、右側のページにページ数が振ってありませんので、3ページということになります。評価シートの1ページ、2ページは振ってあるんですけれども、下段に3ページ、その裏の4ページと振っていただければと思います。

それで、3ページの真ん中にも、先ほどの個人情報保護規程が、「定める」となっておりますので、申しわけありません、こちらのほうもご訂正願えればと思います。

それと、めくっていただいて真ん中ら辺に、（3）管理経費の縮減とあるんですけれども、これは（4）の間違いとなっておりますので、申しわけありませんが、訂正をいただければと思います。

それでは、これより、千葉ポートタワー指定管理者の年度評価を始めさせていただきます。

まず、上から3つ目のインデックス、先ほどの指定管理者評価シートをご覧ください。評価シートについては、平成26年度事業報告書、そして、毎月の月次事業報告書及び年3回のモニタリングをもとにして作成しております。

まず初めに、基本情報として、施設管理者は株式会社三越環境ビル管理、指定期間は平成23年4月1日から平成28年3月31日までとなっております。

次に、2、管理運営の実績についてですが、(1)主な実施事業は、施設の管理運営業務、維持管理業務、経営管理業務の指定管理事業と、1階売店での物品販売業務、3階のラウンジ運営業務、施設屋内外でのイベント事業の自主事業でございます。

(2)利用状況について、有料利用者数が7万8,009名、前年比で96.6%、目標比の65.6%となっております。無料利用者数が5万1,483名、前年比で120.2%、目標比で66.6%であり、有料利用者数が減少し、無料利用者数は増加いたしました。

(3)収支状況についてですが、収入は、来館者数の減少により、利用料金収入は計画比59%と大幅に下回っております。対前年比といたしましては93.8%となっております。

②支出は、管理運営費、人件費、事務費、管理費についてですが、計画比89%、対前年比で115.6%となっております。自主事業費は計画比98.0%、前年比で100.9%とほぼ前年並みの結果でございます。

③収支実績は、マイナス1,280万1,000円の赤字となっております。

次のページをお願いいたします。

(4)、(5)、指定管理者が行った処分件数及び市への不服申立て等は、ございませんでした。

また、(6)情報公開の状況は、公文書開示が3件ございました。

次に、3、利用者ニーズ・満足度等の把握について。

(1)アンケート調査についてですが、アンケート調査の結果については、有効回答4,475人が得られました。職員からの積極的な声かけ実施により、アンケート回収数が前年の1.5倍ほど増え、より多くの意見を調査することができました。調査の方法としましては、アンケート箱を常時設置するとともに、先ほども申し上げた、スタッフが入館者への声かけをして、アンケートにご協力をいただいたということになっております。

②調査の結果は、記載のとおりです。特に、25年度から設けた「来館目的」という項目については、1位が「展望」、2位が「近所まで来た」、3位が「夜景」となっております。特に夜景については、平成24年度に日本夜景遺産に登録されておりますが、平成26年度には、さらに日経新聞の調査により、「工場夜景のきれいなスポット」東日本3位の評価を受けましたので、ここも、夜景に特化したプロモーション等の強化も図ってまいりたいと思っております。

③アンケートによる意見、苦情への対応については、記載のとおりとなっております。ご指摘いただいた事項に対して、可能な限り迅速に対応しております。

(2)市に寄せられた意見、苦情は、ございませんでした。

次のページをお願いします。

4、指定管理者による評価ですが、季節に応じたイベント等の積極的な開催による集客策に努めたこと、設備の日常点検、定期点検を通じ、施設の維持管理に努めたこと、また、大規模改修としてゴンドラ改修が完了したこと、県美術館が再オープンし、人の流れが変わったことを実感したことから、引き続き周辺施設との連携を強化し、集客を

図ってまいりたい。また、ダイヤモンド富士やフライボードなど海辺の魅力を生かした自主事業に力を入れるとともに、それらを入館者拡大につなげたいと報告を受けております。

次に、市による評価についてですが、資料が変わりまして、上から4番目のインデックス、指定管理事業対照一覧表になります。見開きのA3の資料になります。

まずは、履行状況の確認状況でございます。

(1) 市民の平等な利用の確保、施設の適正な管理についてですが、①個人情報保護規程の策定では、管理運営の基準に従い、みずから個人情報保護規程を作成し、ホームページにて公開しております。また、新規雇用者を含めた従業員に「個人情報の取扱いに関する誓約書」を提出させるなど、適正に対応しており、ともに2と評価いたしました。

情報公開規程の策定についても適正に対応しているため、こちらも2の評価をさせていただきます。

②の行政手続についても、①同様に、業務マニュアル、その公開状況についても問題点は特に見られず、年3回、7月、12月、3月に行いましたモニタリングレポートによる評価でも問題なしと判断し、2と評価させていただきます。

③の労働関係法令を遵守した労働条件の確保についても、就業規則を作成し、総括責任者である館長の管理のもと適正に運営されていると判断し、2と評価いたしました。

④モニタリングについては、利用者とのコミュニケーションを積極的に図ったことにより、アンケートの回収件数が前年度よりも1,500件増え、合計4,475件得ることができました。利用者アンケート要望により、ラウンジでの和食メニューの提供開始、週末イベントの実施など、リピーターを増やすための策を施しました。また、ホームページ上での要望、意見聴取は常時行っており、適正に行われていると判断し、2と評価いたしました。

(2) 市民サービスの向上についてですが、①利用者サービスの向上、②利用者への支援については、前年同様に、適切な管理運営体制が実施されていると判断し、2と評価させていただきました。

(3) 施設の効用の発揮、施設管理能力ですが、利用促進の方策については、ホームページのスマートフォン対応やFacebookなどSNSを活用した情報発信手段を取り入れ、情報も細やかに更新されていきました。また、千葉ポートパーク周辺施設利用促進連絡協議会による情報共有を生かし、マリンフェスタ、工場夜景クルーズ、ダイヤモンド富士鑑賞会など、周辺施設と連携した試みを実施するなど、積極的な情報発信と連携を評価し、3とさせていただきます。

次のページをお願いします。

②施設の維持管理、③利用料金の設定については、管理運営基準や事業計画に従い遵守されているため、2と評価させていただきました。

④自主事業の効果的な実施については、恋人の聖地事業の展開状況ですが、周辺施設と協力し、愛のプロムナードにて初の挙式が実現いたしました。クリスマスやバレンタインデー、ホワイトデーなどに合わせ、特別ペアチケットを販売するなど、カップル向

けイベントを実施し、恋人の聖地の認知度向上を図っていったことから、3と評価させていただきました。

1階売店及び3階ラウンジの運営状況ですが、3階ラウンジ事業では、千葉県産の農産物や海産物を使ったメニューや季節ごとに特別メニュー提供などを行いました。また、アンケート要望により和食メニューの提供を始めました。評価は2とさせていただきます。

イベントの実施状況では、集客力の高い季節イベントを継続実施いたしました。地域の特性を生かしたダイヤモンド富士撮影会も定着しつつあります。また、新たに「サンセットライブ」と称し、毎週末に2階展望室でイベントを実施しております。このイベントのように、リピーター向けイベントの館内実施により、にぎわいづくりと入館料収入増を図っております。評価は3とさせていただきます。

なお、夏休みに、子供に大変人気のあるイベント、千葉テレビの「チュバチュバワンダーランド展」も開催するなど、多くの家族連れも訪れました。日中はファミリー向け、夕方からはカップルや大人向けなど、ターゲットを絞ったイベントを実施してまいりたいと考えております。

マスコットキャラクターの展開状況としては、ぽ〜とくんの誕生日である6月15日に、ぽ〜とくん誕生日会を実施し、にぎわいづくりとぽ〜とくんの認知度向上に努めました。評価は2とさせていただきます。

次のページをお願いいたします。

(4) 管理経費の縮減についてですが、支出見積の妥当性では、管理運営費は前年比115.6%、計画比の89.0%、自主事業費は、前年比94.3%、計画比98%、支出合計はほぼ前年並み、105.4%のため、2と評価させていただいております。

②収入見積の妥当性では、利用料金収入は、計画比59%、前年比93.8%のため、1と評価させていただきました。利用前年者数は前年比のマイナス5,870人となっております。

また、自主事業収入は、計画比88.4%、前年比100.9%のため、2と評価させていただきました。

以上をもちまして、恐れ入りますが、評価シートに戻らせていただきまして、3ページ、市による評価でございますが、利用状況について、入場者数全体としては前年よりも5,870人増加しました。内訳では、無料入館者数が増え、有料入館者数が減ってしまいましたが、増加のあった無料入館者の区分は、60歳以上と市民の日による無料開放での入館者であり、前年より8,600人多い無料入館がございました。入館者数が増加したものの無料入館者数が多く、利用料金収入はマイナスとなってしまいました。

1月以降、県の美術館から多くの方が流れてきましたが、そのほとんどが60歳以上、要するに無料入館者であり、ただ、無料入館者ということで、売店利用が多くあったものの、無料入館者だったものですから入館料の収入につなげることができませんでした。

前年に比べ多くのイベントを積極的に実施したことは評価できますが、収入に大きくつながってはおりません。アンケート等も参考にし、収入が見込めるイベントを検証してほしいと考えております。

今年度の評価を踏まえ、次年度への期待として、平成26年は5月、8月、12月など、

天候不良の影響が大きく、来館者が減少し、収入にも大きな影響を受けましたが、アンケート結果にあるように、ポートタワーへの来館目的の半数が展望を占めるため、天候による影響は大きいと思われますが、そのために館内イベント、サンセットライブやバレンタインデーイベントなど、天候に大きく影響されない魅力づくりに励んでいただきたいと考えております。さらに、夜景、ダイヤモンド富士など、地域の特性を生かした魅力づくり、新たな利用方法としてウェディングなど、新しい魅力を発掘し、育てていただきたいと考えております。

全体的には、積極的なプロモーションに努め、施設の維持管理についても適正な取り組みが行われたということから、S、A、Bという3つの評価基準の中で、Aと評価させていただいたところでございます。

続きまして、総合評価についてご説明させていただきます。

インデックス上から2番目、A3判の資料1ページ目をご覧ください。総合評価については、平成23年度から平成26年度までの年度評価シート、事業計画書、事業報告書、モニタリング結果をもとにして作成しております。

初めに、1ページの1、施設の適切な管理・市民サービスの向上についてでございます。

(1) 関係法令等の遵守、(2) モニタリングの考え方、それから、2ページ上段、(3) 利用者サービスの向上、(4) 利用者への支援、各項目とも、おおむね事業計画どおりの実績・成果が認められました。アンケートから、いずれの年度においても、おおむね目標どおりの結果が得られたことから、評価をAとさせていただきました。

次に、2ページ下から2番目になります。2、施設の効用の発揮、施設管理能力についてですが、(1) 利用促進の方策では、ホームページのスマートフォン対応やFacebook・Twitterを利用した情報発信など、利用者目線に立った手段を常に取り入れたこと、また、迅速な情報発信がされていたことから、Sと評価させていただきました。

(2) 施設の維持管理、次のページの(3) 利用料金の設定については、関係法令に定めるところに従い、定期的に点検、清掃、保安警備が実施されており、施設は良好、安全な状況が維持されていたため、Aと評価させていただきました。

同じく、3ページ上から2番目の(4) 自主事業の効率的な実施については、ゴールデンウィークイベント、夏休み、冬休みなど、季節イベントが定着しました。また、現指定管理者から開始した恋人の聖地、冬花火、日本夜景遺産登録、千葉湊大漁まつり、ダイヤモンド富士鑑賞会、マリンフェスタ、ぽ〜とくん誕生日会などが上げられます。まだ集客効果を検証中ですが、毎週末夕方に2階展望室でライブを行うサンセットライブなどは、今後、集客につながるものと考えております。ポートタワー独自で実施に至ったものもありますが、周辺施設や市との連携により実現した取り組みもございます。千葉みなとの栈橋完成も視野に入れ、周辺施設との連携を活用していきたいと考えております。したがって、評価はSとさせていただきました。

次に、3、管理経費の削減についてですが、(1) 支出見積の妥当性でございます。管理運営費においては、4年間とも安定して計画の範囲内で執行されており、節減の努力が認められます。自主事業費についても、計画を上回った年もありましたが、大幅な超

過はないため、Aと評価させていただきました。

次のページをお願いいたします。

(2) 収入見積の妥当性についてでございます。利用料金収入は4年間通じて大幅に計画を下回る結果となり、達成率はおおむね60%から75%でした。自主事業においても計画を下回る年がほとんどであったため、Bと評価させていただきました。

収入計画と実績は大きく乖離しておりますが、この計画値は、指定管理選定時に期待値を込めて高目に設定しております。今年度、指定管理者の再設定がありますが、次期指定管理者には、これまでの実績を踏まえた現実的な計画設定を求めてまいりたいと考えております。

次に(3) 収支状況についてです。平成24年を除きマイナスとなっており、決して良好であると言いがたい収支状況のため、Bと評価させていただきました。

まとめといたしまして、前述したとおり、利用者サービスの向上では情報発信手段への取り組み、自主事業の実施については新たなイベントの実施、ラウンジメニューの開発、施設の改修など積極的に行っており、評価に値いたします。しかしながら、それらが必ずしも収入につながっておりませんでした。積極的な自主事業を収入につなげ、収支バランスの安定した運営を目指してほしいと考えております。

以上、4年間の評価として、通年を通じた積極的なプロモーションに努めたほか、施設改修も含めた施設管理についても適正な取り組みが行われたというところで、総合評価として、S、A、Bの3つの評価基準の中で、評価Aとさせていただいたところでございます。

以上でございます。

【部会長】 ただいまの説明に対しまして、何かご質問・ご意見等がありましたら発言をお願いいたします。意見につきましては、後ほど部会の意見として取りまとめることとなりますので、意見であるということを明確になされて発言いただくよう、お願いします。

また、意見については、昨年度指定管理者が行った管理運営に対するものは「年度評価」、次期指定管理者選定にかかわるものは「総合評価」における意見として、整理させていただきますので、あらかじめご了承ください。

それでは、何かご発言はございますでしょうか。お願いします。

ちょっと私が言って、あれなんですけれども、今の部分ですけれども、年度評価と総合評価というふうに、ここでは分けて整理するという進め方なんですけれども、議題としては指定管理者総合評価だけなんですよね。年度評価は、これはどうなるんですか。事務局のほう。

【今井経済部長】 年度評価につきましては、通常と同じように平成26年度の評価ということで、評価のシートを作成させていただきます。したがって、26年度、どのように管理運営がされたかというところをご覧いただきまして、ご意見を頂戴できればと思っております。

総合評価のほうにつきましては、今までの指定管理初期から4年間を通じての全体的な評価ということでお願いいたします。

したがいまして、案件が2つ、かぶっているんですけども、その部分はそれぞれ分けた形でご意見を頂戴できればと思っております。

以上でございます。

【部会長】 意見はそういうふうに、26年度の年度評価と過年度分、26年度までの4年間の総合評価というふうに分けるんだけど、議題としては総合評価だけ。

【今井経済部長】 そうですね。議題の題名は総合評価とさせていただいておりますけれども、実際にご意見を頂戴いたしますのは、今、申し上げた2件ということになります。

【部会長】 26年度の年度評価については、これはどうなりましたか。いつも年度評価のどこかに、選定委員会の意見と書く欄が最後にありますよね。今日の委員会で出た意見がここに入るということでよろしいんですね。

【今井経済部長】 おっしゃるとおりです。したがいまして、委員の皆様方からご発言いただきました内容で、26年度の評価に関しているものと全体を通してのものと、こちらのほうである程度区分をさせていただきまして、26年度に関するご意見に関しては、今、お話がありました26年度の評価シートの意見のところにまとめまして、全体を通じてというところに関しましては総合評価ということで、少々ややこしくて申しわけないんですけども。

したがいまして、両方をご覧いただきまして、委員の皆様方からは、例えば、26年度の管理を見るとこういう状況だがというような形でご意見を頂戴できれば、事務局のほうで整理をさせていただければと思っております。よろしくお願いいたします。

【部会長】 この先の進行なんですけれども、経験のある委員ばかりですので、要領はおわかりだと思いますが、総合評価シートは、各委員の評価をいただくことなんです、このシートはいつ配るんですか。

【今井経済部長】 ご意見を一巡頂戴した後に、シートを配付いたしまして、それぞれご記入をいただくという段取りになってございます。

【部会長】 では改めまして、各委員の意見を求めますが、くどうようですけども、2つの意見に分かれる。26年度年度評価と総合評価という2つに分かれるということをお願いいたします。

【委員】 質問をしてもよろしいですか。市のほうに質問なんですけれども、市のモニタリングというのが、年3回行っているというお話でしたけれども、これはどういう内容のモニタリングをされているのかということと、もう一つは、栈橋ができるのは、もう一回確認したいんですけども、いつになるかということをお願いいたします。

【集客観光課職員】 モニタリングに関してですけども、基本的には、上から3番目の評価シートという、年度評価のシートがあるんですけども、こちらの3ページ目から4ページ目にかけまして、(1)市民の平等な利用の確保とありまして、基本的にはこういった項目に合わせて、年に3回モニタリングを実施させていただいております。

それ以外にも、館長のほうとヒアリングを行いまして、ここに載っていない情報がありましたら、それも評価に入れるようにしております。

【山崎集客観光課長】 それから、栈橋の件ですけれども、一応、平成28年4月に開始をするということで、一番最初の計画、今、港湾計画上では栈橋2基の計画がござい
ますが、まず、1基が平成28年4月、まだ日付が確定しておりませんけれども、4月か
ら使えるようになるかと聞いております。

それとあわせて、これは千葉市のほうで、当然、栈橋があるので旅客船ターミナルを
整備しておりまして、レストラン等が伴った旅客船ターミナルということで、これも同
時期にできるような形で、4月にはオープンできるような形となっております。

以上でございます。

【委員】 ありがとうございます。

【副部長】 ちょっと質問なんですけれども、総合評価をこの4年間見ていると、
有料収入のところは、前の水準には戻らない状況で、経済的な状況があるのはわかって
いますし、競争相手という面も、ここには書いていないけれども、考えると、有料で展
望台に上がってもらえる人が少なくなっているということだと思えるんですけれども、
次の募集をされるときに、今後の展開を、有料の部分の人数についてはどんな見通しで、
それぞれ募集の方たちに任せるんでしょうけれども、それはどういうふうな見通しを、
今後四、五年にわたって、考えられているのか。

【山崎集客観光課長】 一応、市のほうは、これからまた、この4年間の状況を踏ま
えて、まず、委託料の設定をどういうふうにするかというのを検討していきたいと思
います。それとともに、当然、指定管理者がこの4年間、収入を見込めた利用者数とい
うのは、実績がもう出ておりますので、ここら辺の実績を勘案して、きちっと提案の中
の計画数を出してもらうような投げかけをしていきたいと思っております。

【部会長】 それに関連して、総合評価資料のページ4の収入見積妥当性、収支状況、
(2)、(3)ですけれども、いずれも厳しい結果が出ていると見るしかないんですけ
れども、全然実績が悪いわけですね。

一つには、無料入場者がいるのでという説明もわかるんですけれども、収入に結びつ
くかどうかという意味では、支出、(3)の総収支というものを見れば一番歴然とすると
思えるんですけれども、23年度マイナス、24年度が初めてプラス、ところが、25年度マイ
ナス、26年度マイナス、総収支ですから自主事業も含まれていますけれども、自主事業
を捉えても、この4年間、芳しくない。

今、課長がおっしゃったように、次年度からこの実績を踏まえてやるとすれば、委託
料といいますか、指定管理料の値上げに結びつくしか、これ、やっている企業さんは、
赤字が相当の数字になると思うんですよね。継続してなさるかどうか。多分、赤字が
出るような事業から撤退、新規の募集者も、この収支実績を見れば、手を出す人はいな
いんじゃないかと。

となると結局、管理料収入、こちらとしては支払いですね。アップしかないんじや
ないかと思うんですけれども、先ほどの発言というのはそういう意味になるんですか。

【山崎集客観光課長】 厳密に、先ほど言った自主事業という部分、ここら辺はど
ちらかというと、指定管理に応募される方々の提案という部分になってくると思うん
ですけれども、我々としては、必要な事業を精査して、過去の実績等を見ながら、管理費と

というのは、そんなに我々も上げられないと思っておりますので、どちらかというところ、自主事業費の部分の抜いて提案をしてもらうような形になると思います。

それと、もう1点、今までちょっとできなかったんですけども、実は今、いずれにしろ、自主事業について、やはり入館者に結びつくような自主事業が提案されるようなことを、例えば公募条件の中に、こういう状況の中で、結びつくような事業を提案してほしいとか、そういったものをわかりやすく出していかないと、応募するほうもわからないと思うので、そこら辺が、またこれから募集をかける際に、委員の皆様のお知恵をおかりしながら、そういった公募条件をつくっていきたいと思っております。

【部会長】 それに関連して、結局、指定管理料のアップに結びつく実績しか残さなかったとか、まだしばらくありますけれども、年度評価にも同じ項目があるんですけども、総合評価の一覧表のページ2の2、施設の効用の発揮、施設管理能力という点で、(1)について、利用促進の方策、評価はS、素晴らしいということになっていまして、利用促進の方策が失敗しているからこういうことになるんじゃないんですか。何の効果もないところに何でSがつくんですか。

それともう1点、同じことです。同じS評価を受けているのは3ページ目の(4)ですけれども、自主事業の効果的な実施、効果的というのは結局、成果が上がるということでしょう。それが赤字を出しているのに、効果的な実施、いろいろ試みましたが、それはわかりますよ。試みましたが、結果は赤字でしたというんでしょう。ここにどうしてSがつくんですか。

ちょっと説明してください。

【山崎集客観光課長】 確かに、なかなか利用者の部分、有料のほうには結びついておりませんが、無料の入館者というところは増えている部分もあって、特に26年度については、美術館もオープンしたこと、それから、周辺のイベントと連携したものをやって、そういう意味では、入館者を維持、それから、伸ばす年もあったり、そういったことも踏まえて、利用促進というところはSという評価を、さまざまな情報発信、Facebook・Twitter等の発信を使って、若者たちにも情報を発信するなどの工夫もされておりますので、そういった工夫を見て、我々としてはSの評価をさせていただきました。

それと、自主事業につきましても、先ほど言ったように、なかなか結びつかなかったということはあるんですけども、ポートタワーを皆さんに知ってもらうということでは、こういった自主イベント、以前、指定管理がやる前のポートタワーというのはほとんど、イベント等があまりなく、そういう意味では、よくイベントをやっているポートタワーという認知度は上がったと思っているんですけども、そこら辺が、実際には利用者には結びつかなかったという反省点はあるんですけども、そこら辺のイベントを行うことによってポートタワーの認知度を高めてくれたというところで、Sという評価をしております。

ただ、申しわけありません、自主事業をやっても利用者に結びつかなかったとか、そういったところは確かにあると思います。ただ、周知度という意味では、アップは図れたのかなと考えております。

【委員】 少し関連しますけれども、自主事業の中で、イベントについて高い評価が、

総合評価でも、年度評価でも出されてます。これは前年度もご指摘したところですが、事業報告書の16ページのところに、自主事業の実施状況というのがありますけれども…。

【部会長】 16ページは、どこの16ページですか。

【委員】 後ろの事業報告書ですが……。

【部会長】 後ろの事業報告書のほうの16ページね。

【委員】 そうです。

【副部会長】 何年度。

【委員】 一番最初のところです。

【副部会長】 26年度。

【委員】 はい。その16ページの事業内容のところで、売店運営とラウンジ運営については記述がありますが、イベントについては記述がないんですね。過去の年度も調べてみると、イベントについての記述はありません。イベントに力を入れており、それが目玉ということであれば、事業報告書に何か記述があつていいように思うんですけどね。

【山崎集客観光課長】 申しわけありません。私もその部分は、今年、来て、気がついているんですが、報告の書き方が、実は、イベントについては2ページ、この整理をしなければいけないと思っているんですけども、ずっとこういう形で、その他のところで、イベントをこっちのページに書いてあるんですね。

実際にこの中で、要は、管理としてやっているイベントというよりも、自主的にやっているイベントということで、本来こっちに来るべきものだと思うんですけども、それがずっとこちらの2ページ、その他のところに書いてあったので、これは私のほうでも指定管理者のほうに、きちっと整理をしなければだめということを言おうと思っているんですけども、そこら辺は、ちょっと記載の場所が違っていたということで、一応、51のイベントをと。

すみませんでした。

【委員】 そうですね。こちらは、いつ何をやったという項目の情報だけなので。

【山崎集客観光課長】 そうですね。どれぐらい人が来たかとか、そういったものも、ちょっと足りないなという。

【委員】 もう少し詳しい記載があつてもいいと思います。

【山崎集客観光課長】 申しわけありません。そこは今後、修正してまいりたいと思います。

【委員】 はい。

それから、続けてよろしいでしょうか。細かい点で申しわけないですが、同じ事業報告書の20ページのところに自己評価というのがございますね。その評価ですが、例えば、7月はAになっているんですけども、横の記述部分を見ると、3か月続けてマイナスとなったとありますので、何でAなんだろうと思いました。ここは対応関係がわかるような記述をしていただいたほうがよろしいのかなと思います。

【山崎集客観光課長】 はい。

【部会長】 関連して。事業報告書の訂正を求めるというのであれば、今、善積委員

が指摘したように、20ページ目の7月、これはCです。誤記です。

【山崎集客観光課長】 そうですね。

【部会長】 それに加えて23ページ、7月もAになっていますけれども、これは内容的にはCですね。10月、11月のAは正しいと思いますけれども。

というふうに、事業者自体も、先ほどの自主事業の内容記載、説明ページが2ページに飛んでいたり、あまり熱意がないといえますか、ちょっとどんなものだろうという疑問が大いに生じます。

それで、先ほどの繰り返しになりますけれども、集客、利用促進の方策というところとか効率的な自主事業という意味で、ほんとうにSをつけてよろしい人なのかどうか、大いに私は疑問を持ちます。

【山崎集客観光課長】 事業報告につきましては、うちのほうもきちっとチェックをして、訂正させるべきところは訂正させるように、今後いたしたいと思います。

【部会長】 これは総合ですけれども、26年度の年度評価についても、これはどうなっていましたか。先ほどの26年度評価シートのA 3判の一覧表の一番最後のページ、最後の(4)は評価1、(4)の収入見積の妥当性という点ではですね。同じような点数が来ているんですけれども、自主事業はマイナスなのにかかわらず、2になっているんですけれども、これはどうしてなんですかね。

【山崎集客観光課長】 収入見積の妥当性のところの自主事業収入のところですか。一応、市としては、計画どおりの執行かということなので、計画の範囲内でやられたということで2という。結局、この評価シートが、自主事業収入は計画どおりかということの評価になるものですから、実際に計画内での支出だということで、2とさせております。

【部会長】 何%だったら1になるんですか。

【山崎集客観光課長】 超えた場合ということに……。

【部会長】 超えた場合というのは。

【山崎集客観光課長】 計画費より自主事業費が、支出が超えた場合は1になると解釈しております。

【部会長】 自主事業収入が計画よりも下回ったわけですね。ところが、88.4%にとどまったから、2の評価だと。

【山崎集客観光課長】 はい。勘違いで、すみません。

【部会長】 では、1になるのは何%なんですか。

【山崎集客観光課長】 収入ですね。収入が何%というのは、明確な数字は、申しわけありません、ございません。すみません、支出と収入を間違えておりました。

【部会長】 であるけれども、88.4%にとどまっているんだから、評価は2で。

【山崎集客観光課長】 はい。そのとおりでございます。

【部会長】 それで、同じことになりますけれども、自主事業関連でいくと、その前のページに、④自主事業の効果的な実施、1つは恋人の聖地が評価3、イベントの実施状況が評価3だけれども、効果的なのという意味合いが、赤字ではなくて黒字、収益に結びつくものであれば、私は、「効果的な」と言えると思うんだけど、結果は赤字であ

るから、評価3はおかしいんじゃないかということを、総合評価と同じように指摘しておくのと、同じことは、その前の前のページ、(3)の①利用促進の方策、ここにも評価3がホームページの活用状況に出てきていますけれども、利用促進というのが利用収入の増大に結びつくものを狙いとする項目であるとすれば、評価3は適當ではないんじゃないかという意見を述べておきます。

【今井経済部長】 今ご指摘があった点のうち、イベントの状況なんですけれども、イベントに関しましては、自主事業の中での収入で計算されているんですが、自主事業の中で、イベントだけの収支状況を見ますと予算比126.8%、イベント単体で見ますと、それ自体は収益につながっております。自主事業全体が多少落ちておりますので、全体を見てしまうと自主事業はそれなりに落ちていますが、イベント単体を取り上げると、収入は予算よりもかなり多くなっております。

あと、恋人の聖地事業に関しましては、こちらは予算的にどうというふうに言えないんですけれども、今回初めて実績が出たということの評価して、3にさせていただいているところでございます。

それから、実際に管理者のほうの今現在の取り組み状況なんですけれども、当然、事務方のほうでモニタリングをしておりますし、私も機会を捉えまして、管理会社等との意見交換もさせていただいております。実際に自主事業等で収入が上がっていないこと等については、管理会社のほうも相当苦慮しているところなんですけれども、ただ、この事業者に関しましては、非常に今、前向きに取り組んでおりまして、自主事業も、さまざまなことを試行錯誤して、どうやったら入館者につながられるかということはやっております。管理に対する熱意も非常に高いものがございます。

したがいまして、確かに書類等の不備はございますけれども、必ずしも現在の管理者が、この事業そのものに対してあまり前向きではないということではないということだけ、申し添えさせていただきたいと思います。よろしくお願いいたします。

【部会長】 そういうことなんですけれども、重ねて言葉を返すようなんですけれども、来年度は結局、市が払う管理料の値上げに結びつかざるを得ないような実態だというあたりを考えると、この評価でよろしいのかというところで、おきゅうを据えるといいですか、そうならざるを得なかった理由はどこにあるのかということになると、S評価なり3評価というのは、私はおかしいんじゃないかという意見です。

【副部会長】 この4年間の自主事業の関係の収益を見ていくと、23年度と24年度には、イベントという欄はないんですね。25と26で、年間で大体300万円ぐらいあるというのは、これは結局、ちょっとした小物を使って自主事業として収益を上げているもので、特にイベントで何かの収入を得る、例えば、そこで企業さんに活用してもらってイベントをするというような、それで収入が入るというようなことはないんですね。

基本的には、昔から行われている、子供たちのイベントに対して参加費用をいただくというようなものが累積して300万円になって、それが今回の委託管理者は、回数を増やしてどんどんやってきているし、ラウンジとか売店の売り上げというのは、これはラウンジも売店も、基本的に、入館してエレベーターに乗った人が使われたという収入ですよ。

【山崎集客観光課長】 はい。

【副部長】 だから、それが増えているということは、集客、有料のほうも増えているのかなと。全体は増えていないんですけども、もし、イベントも全然やらなかったらもっと減っているというふうに思えるので、結婚式が行われるような形が、どこで行われたかも聞きたいんですけども、ラウンジでやられたんですか、1件の。

【山崎集客観光課長】 3階がラウンジですので、その下のスペースを。

【副部長】 そこでやられた。

【山崎集客観光課長】 先ほど言ったコンサートとか、やるスペースがありますので、そちらのほうの2階のところで行ったと。

【副部長】 牧師さんは来られているの。

【集客観光課職員】 人前式ですね。

【副部長】 人前式。誰が牧師の役割というか。

【集客観光課職員】 人前式というのは、私たちは結婚しますと2人で宣言することが挙式という形になっています。

【副部長】 そうですか。ヨーロッパでは市長さんがやられるのは、皆さんご存じだと思うんですけども、やられますよね。市長さんが、毎週日曜日にやると聞きましたけれども、どうなんですかね。集客というのは、なかなか難しいのは、今回は初めてこういうイベントを何回もやられたので、その前の管理者のときはほとんど、そういう人を選ばなくて、今回は、積極的にやるという人にやってもらったので、その評価がこういう結果に、Sの評価になったんだろうと私は思っているんですけども、金額的にはどうなるかというのは、全体の経済の影響、消費税の値上げもあるだろうし、いろんな結果が難しいところが、両方いいといいんですけども、今後、次に選定するときに、どういう形で、エレベーターで上がってもらえる人たちに企画するかというのがあろうと思うんですけども、比較的狭いですよね。

だから、大きなイベントをするのを、上がってもらってやるというケースがどのくらいできるか、それはきっと、協力企業とか協力者がいて、イベント自体をもって収益をもたらすような企画を組まないと難しいかなと、意見として申し上げたいと思います。

【山崎集客観光課長】 ありがとうございます。

【部長】 初步的な質問で申しわけないんですけども、指定管理者の事業というのは、自主事業も含めて、収支実績がどんなにマイナスになっても、結果に対してのフォローといいますか、市から補正的な手は伸べないことになっているんですよ。

【山崎集客観光課長】 はい。

【部長】 となると、単年度で、26年度で赤字が1億2,800万円ですか。

【山崎集客観光課長】 2,200万円です。

【部長】 そうですね。

【山崎集客観光課長】 はい。市からは。

【部長】 できるとすれば、来年度からの市からの補助金といいますか、管理料を値上げしてあげるしかないというようなことなんですけども、ほんとうにこれだけの規模の赤字が出てくれば、何の魅力もないということで、果たして手を挙げる人が出て

くるのかどうかというところもありますし、それと、細かいことで、よくわからないんですけども、入館者数にはイベントでの入館者は入っていると思うんですけども、利用料金のとき、イベントのときのセットで販売した入館料込みの料金は、利用料金収入にはならないで、イベント、自主事業収入になるというような説明でしたよね、この前。

【山崎集客観光課長】 前回、そうですね。

【部会長】 それはそのとおりなんですよ。

【山崎集客観光課長】 昨年、そういうお話があって、共通のものの部分というのは、要するに利用者収入だろうというご意見をいただいたことから、その後のイベントについては、きちっと整理をして、入館者のほうの利用者収入に入るように、指定管理者のほうに訂正をするように伝えて、そういう形になりました。

そこら辺は、ご意見をいただいて、やはり我々としても、きちっとイベントの収入と利用者収入を分けるべきだろうと判断しまして、そうさせていただきました。

【部会長】 わかりました。

【委員】 さっき、モニタリングの話とか栈橋の話で質問させていただいたんですけども、毎回同じことを申し上げていると思うんですけども、ポートタワー単体での経営というのは非常に難しい施設だということだと思います。だけど、市が指定管理者を選んで、ポートタワーを運営しているということには意味があると思うんですけども、そこら辺、市はどういうふうに考えていらっしゃいますか。

【山崎集客観光課長】 いずれにしろ、千葉ポートタワーというのは、千葉みなと中央港のシンボリックな存在になっていると思いますので、私どもとしては、周辺施設との連携をした取り組みというのが一番大事だと思っております。

先ほど言った、県立美術館がリニューアルオープンしたことによって、やっぱり利用者はお年寄りの方が多いので、無料の方が多くなってしまいますが、そこで、無料であれば、売店収入が自主事業としては上がるという取り組みもできますし、来年4月には栈橋ができることによって、旅客船の可能性がかなり高まってまいりますし、それから、そこにできるターミナルのレストラン等の連携として、例えばレストランでお食事をしてもらってポートタワーに上がってもらうとか、いろいろな可能性を秘めていると思いますので、ポートタワーの何協議会だったか、名前が出てこないんですけども、あそこのポートパーク周辺連絡協議会というのもございまして、民間の企業さん、いろいろなレストランだとか、美術館だとか、それから、ポートサービスさん、今言った、遊覧船を出している船会社も入っています。

そういう協議会で、この7月20日にもマリンフェスタというのを、昨年からはじめて、少しずつ連携が出てきてまいっておりますので、これをもっと利用しまして、指定管理者にも、そういったところに中心的な存在になってもらって、周りと一緒ににぎわいを創出していただければと思っております。

以上でございます。

【委員】 もう少しいいですか。今のことを聞いて、今日この会があるので、きのう、ちょっとポートタワーにひとりで行ってきました。1時間ぐらい、ぼーっといたんですけども、入館料、どうしようかなと思うんですよ。420円払ってあそこに行くかという

のを、私でさえ迷う。

行くと改めて思うのは、千葉市のランドマークとして、あそこに上れば千葉市が一望できる。ここは、千葉市というのは海に接している町なんだなということをしごく実感する。いろいろな産業があって、そういうものが千葉市を支えているんだとか、向こう側には、ちょっと低いけれども、山が見えるとか、向こう側には横浜があるとか、あっちにはスカイツリーが見えるとか、そういう自分の市の立ち位置というか、自分がどういうところに住んでいるのかというのがよくわかる大切な場所だと思いました。

なので、まだまだ工夫できるところはあって、まず、千葉市に来て新しく住む人にはポートタワー無料ご招待をして、千葉市を見てもらうとか、そういうのがあるといいなと。あと、利用料金のこと、いろいろと法律的なことはあるかもしれないけれども、チーパスを持っている人とか、マリンのファンクラブの人とか、美術館に入った人とか、いろいろなふうに割引だとか無料の制度というのをつくっているけれども、例えばきのうなんかの平日の日は、ほとんどそういう人は、私みたいに普通の人は行かないし、何の割引も持っていない人は上がらないんじゃないかと思います。

しかも、お天気もそんなによくなかったし、富士山が見えるわけでもないというところで、エレベーターを案内してくれる女性に聞きましたけれども、やっぱり「富士山が見えるときは結構、人が来てくれるんです。」と。周辺の人たちは、今の時期、富士山が見えないことを知っていますというお話をされていました。暖かくなって春になっても、かすみがかかったりする時期はほんとうに富士山が見えない。寒くなって空気が澄んできて、やっと見えるというような状況だと思っています。

だから、すごく季節にも影響されるし、曜日にも影響されるし、お天気にも影響されるし、ディズニーランドのように毎日楽しいことが新しく展開されているというわけではないというところで、どうやって集客するかというのは非常に難しい施設だというふうに思います。

だけど、中を随分ときれいにしていたし、それから、千葉県内のお土産だったらあそこで買えば、鴨川も銚子もどこもという感じで、いろいろなものを集めている。それから、企画としては、ほかのタワーがある、これは香川県のタワーで売っているお土産ですみたいなコーナーもつくっていたり、いろいろと工夫はしていращやるなと思いました。働いている人たちの感じもいいし、それから、私、時々気になって行くんだけど、とにかく館長さんがいつもきれいにしたり、働いているんですね。そういう細かな配慮というのも一生懸命しながら、どうやってやっていけばいいかということを常に考えていращやるなというふうに思います。

今度は七夕のイベントだったり、ほかにも連携したイベントもいろいろとやっています。それから、これもよかったなと思うんですけども、「自転車で行こう！ちばベイエリア」という、これは集客観光がつくったのかな。ポートタワーだけじゃなくて、千葉市の海の周辺をどう回ったら楽しいかみたいな地図もつくって、こういう中で、それこそみんなで連携しながらやっていくという部分をこれからも続けていく。

いつも、これからだ、これからだと言っていますけれども、確実に28年には栈橋もできる。栈橋まで歩いてみたけれども、おもしろくない。そこのところをもう少し、木を

きちんと整理したり、花を整えたり、道の案内図を出す。

ポートタワーの集客に関しては、レディースデーや小学生以下半額などのいろいろな工夫ができると思います。

かなり一生懸命やっているんじゃないかなと。この施設で、絶対収入を上げるのは難しいでしょうという施設でこれだけ頑張っているのを、みんなでもっと応援したいなと私は思いました。

【山崎集客観光課長】 ありがとうございます。

【委員】 ちょっと幾つか。最初、実績を見ていたときに、この評価の出し方はおかしいかなという気がして、今回、特に事業計画書を、意見は多分、次回、これからの話になるのかもしれませんが、事業計画書が事業計画になっていないんじゃないかという気がしたんですが、もっと言えば、作り方がちょっと雑じゃないかと。

もっときめ細かな作り方をしなくてはいけないのではないかなと思って、平成26年度の千葉ポートタワー事業計画書で見ると、例えば、最初の目標、目指す姿みたいなものも、一番最初に、シンボルは国際港千葉港の象徴というふうに、「国際」という非常に重要なこれからのキーワードを入れていながら、目指すべき姿の場合には、千葉県民に愛される千葉港のシンボルタワーみたいな、ここでいきなりトーンダウンしちゃっているんですね。

少なくとも国際港千葉港と国際港千葉港のシンボルタワーとか、そういうふうな形に持って行って、その上で連携だとかいろいろな話があるんじゃないかなと。あるいは自分のところの施策をそこに持っていくために、国際港千葉港にふさわしいポートタワーにどうやって持っていけるかという話が、事業計画の中に出てくるのではないかなという気が、まずはするんですね。

それから、「メインターゲット」の中にも、エリアターゲット、ワイドターゲットとかファミリーパラダイスみたいなターゲットがあって、いきなりここで夜景がターゲットになっているのは、これはあり得ないわけで、夜景は手段であって、別にターゲットではないわけですよね。なぜこんなところに入っているかという、全体的に、恋人の聖地がすごくひっかかってきているんじゃないかなと。全体の計画の中に、あまりにもひっかかり過ぎているのではないかなという気がするんですね。ほんとうはここはカップルだとか、そういうふうを書くべきところが、いきなり恋人の聖地という形になってしまっているんですね。

それから、次の「環境与件」というのも、これはどっちに行くのかと。例えば、ららぽーとができて、ポートタワーとして、いい機会だから一緒になってやるべきなのか、あるいは、そこに客が引かれちゃってマイナスになるんじゃないかという、脅威としての与件なのかというのは、そこを一番明確にしなければいけないところではないかなと思うんですね、与件に対しては。

ですから、よくSWOT分析と言われますけれども、そのようなところまできちっと押さえて、事業計画の戦略を練るということが大事ではないかなと思うんですね。千葉県のと言っているから、県全体で、みんなで仲よくやっていくみたいな話が当然あるんだと思いますけれども、ららぽーとができて、あるいはイオンモールができて、では

どうするんだというようなところまで言わないと、与件といっても、ただあるよというだけで、事業計画としては意味を持たないのではないかなと思うんですね。

それから、例えば、その下のほうにある主な具体策の中の1階ホールの「陳列の改善や売り出し中の屋台・移動販売のグルメに開放し、定期的に入替える」、さっぱり意味がわかりません。グルメって何のことを言っているのか、人のことを言っているのか、食のことを言っているのか、これは全く意味がわかりません。屋台とか販売、事情をわかっている人は、多分、わかるんですね。我々はこれを見ても、何をどうするのか、何を定期的に入れかえるのかというのが全くよくわからないようなところがあったり。

それから、下に、DVDをとというのが書いてあるんですけども、実際にDVDの売り上げが気になる場所なんですけれども、多分、売れていないと思うんですけども、ホームページを見ると、DVDをYouTubeに出していると書いてあったんですね。さっき、YouTubeを見ていたんですけども、3分間、YouTubeに出ているのは見ていたんですけども、なかなかいいと思うんですけども、そういうところまでしっかり書いておかないと、DVDだけ売ったというのではなくて、YouTubeでちゃんとPRしていますとか、3分間のものを出してPRしているとか、この段階ではまだしていなかったのかもしれないんですけども、そのようなところもあったんですね。

それから、集客事業と収益事業は違うと思うんですね。それから、来訪者に対応した事業というのも、これまた違うと思うんですね。来た人が楽しめる事業なのか、たまたま来たら、何かやっていて楽しめる、あるいは、たまたま来た人も楽しめるようなイベント事業としてやるのか、これはあくまでも集客のためにやる事業なのかというところを明確にする必要がある。どうもその辺がすごく曖昧なんですね。

それが曖昧なのがわかるのが、11ページの「入館者対応イベント」になっているんですね。これは全然集客じゃないですね。意味的には集客になっていないわけですね。入館者対応だから、来た人がそこでちょっと楽しんでもらえるよみたいなことであって、これは集客のためにはなっていないと言っているようなものなんですね。でも、ほんとは多分、集客のためのイベントなんですね、これは。

それから、例えば左側の「減額するもの」というのは、これは役所的であって、減額するのはなぜかといったら、集客のためなんですね。いろいろなところと連携をして集客を図るために、大勢、団体の集客をするために安くしますよということであって、あくまでもこれは集客のものである。全体で、さっき見たら、年間4,500人ぐらい来ているようなんですけども、これをもっと倍にするとか、そうすると、もっと企業と連携を深めて増やしていこうとか、そのようなところで、集客ということが、事業に対する意識の中で、かなり低いのではないかなという気がしますね。

あと、いろいろあるんですけども、一応、主にそんなことで、先ほど評価のことが出ていたんですけども、ここで言っているのかどうかかわからないんですけども、いい評価にすべきか、悪い評価にすべきか、これは多分、平均的なところをどこに置くかということになると思うんですけども、次に事業者を決めるときに、先ほど委員長も言われていましたが、これだけ赤字なのにいい評価をもらっている、これでいいんじゃないか、このぐらいでいいのかみたいなことで今度、応募してくると、これまた困った

もので、しっかりと、前はこれだけ悪かったよということを言って募集したほうがいいのか、そうすると今度は来なくなっちゃうというのもあって、その辺を少し考えながら、来年度も考えながら評価するというのも、ちょっと意識が必要かなと。作為的にやるわけじゃないんですけども、レベルをどこに置くかということをしっかり考えてやらないとまずいかなと、さっき委員長の話を聞いて、ちょっと考えていたんですけどもね。

以上です。

【山崎集客観光課長】 ありがとうございます。

【部会長】 ちょっと長くなりましたけれども、一言だけ。次期指定管理者の募集に際して、先ほど出たように、管理料のアップ、現指定管理者に払われているのは年間7,000万円のはずですよ。

【山崎集客観光課長】 はい。

【部会長】 この4年間の赤字、1億9,000万円を4年で割っていくと4,500万円、自主事業も含めてですけれども、赤字を出すのはかわいそうだなというような見方で募集するんだということになると、この実績からいくと、7,000万円が、今度、1億1,000万円、2,000万円という管理料を支払うということになるんじゃないかと、単純に数字で計算するとね。

今年度、5年目がどうなるのか、まだ未知ですけれども、そのような数字になることもある程度お考えで、先ほどの次期指定管理者の募集概要に管理料というのは描かれているんですか。それとも、全然違うような数字になりますか。

【山崎集客観光課長】 自主事業というのはあくまでも自主事業、要するに指定管理者の提案事業になりますので、自主事業の実績を除いた実績を見ていかないといけないと思っております。自主事業というのは、指定管理の提案者がやるべき事業という形で、そういう意味でいくと、自主事業とか、赤字の補填というのは市ができないという。

【部会長】 では、自主事業を除きましょう。除いて、どのぐらいの赤字を補填するというような形、赤字を出さないような管理を、大体のアバウトな数字で、次期募集に対して。

【山崎集客観光課長】 まだアバウトな数字は出していないんですけども……。

【部会長】 大きな数字になることは間違いないんですね。

【山崎集客観光課長】 いや。

【部会長】 そうではない。

【山崎集客観光課長】 管理運営収支でいきますと、今年度は500万円ほどマイナスになってしまっていますが、23年から25年でいきますと、23年が130万円程度プラス、24年が650万円程度プラス、25年が9,800万円程度のプラスになっておりますので、要は、自主事業の部分をどういうふうにマイナスを減らして提案をしていただくかという形になると思うんですね。

【部会長】 わかりました。

【副部会長】 ちょっと関連でいいですか。数字がよくわからなくなったので、ごめんなさい。自主事業であっても、ラウンジとか、上にエレベーターに乗った人の収入は、

ここだと……。

【山崎集客観光課長】 全て指定管理者のほうの収入になります。

【副会長】 になりますよね。利用料金。この指定管理者評価シート、何年度でもいいですけども、今、私が見ているのは平成26年度で、収支状況で、収入実績で指定管理委託料が7,000万円ですよね。利用料金があって、自主事業という収入がありますよね。実績だと7,800万円。この7,800万円というのは、先ほどの説明だとどういう……。

【山崎集客観光課長】 この収入は、主に大きなものは自主事業のラウンジと、それから物販、1階の。

【副会長】 そうですよ。

【山崎集客観光課長】 はい。それがほとんどになっています。

【副会長】 利用料金というのは、エレベーターに乗った料金ですよ。

【山崎集客観光課長】 はい。

【副会長】 自主事業をやっているときも含めて、入場者、料金を払った人は、全部で4,400万になるわけですよ。

【山崎集客観光課長】 はい。

【副会長】 それで、収支実績でいくと、26年度は1,280万円のマイナスになりました。そういうのを見ていくと全体で、ここにありますように、4年間で幾らでしたか。2,000万円ぐらいのマイナスになりましたということですよ。それでよろしいんですよ。2,000万円マイナスだったわけ。

【山崎集客観光課長】 そうですね。総事業費になるとそういう形で、はい。

【副会長】 総事業費だと2,000万円の4年間のマイナスの累計です。

【山崎集客観光課長】 2,000万円弱になりますけど、はい。

いずれにしろ、当初、指定管理料をやったときの計算で、要するに過去の入館者数から出してきたと思うんですけども、実は、計画がかなり高いというのもあるんですけども、震災の影響が大きくて、委託業者さんに申しわけないんですけども、そういう意味では、震災からの4年間というところで、我々としても、入館者数の推移から委託料を積算したんですけども、そこら辺を基本的に変えないといけないのかなというのはあるんですけども、それがこれからの積算なものですから、これぐらいの委託料にしたいということが今の段階で言えない。

ただ、そういう意味では、委託料が増える可能性はある。同額なのか、こういう積算のもとにやっていくとこれだけの委託料が必要になるのではないかという議論を、これからしていかなければいけないと思っております。基本的には、そうですね。

【副会長】 そのこのところが今、各委員さんの関心のところで、どうされるのかなと。

【山崎集客観光課長】 そこら辺を、今言った、新たな入館者数、利用者数を踏まえて、どう積算していくかというのを、我々のほうでこれから積算をして、財政といろいろやりとりをしていく積算のもとをつくっていきたいと思っておりますので、次期、今度募集をかけるときに、こういう積算でこういう数字をもとにつくって、市はこういう委託料の中で募集をさせていただきますというのを、次回、この委員会のほうにご報

告をさせていただいて、また審議していただくような形になりますので、そこら辺の積算方法等も次回、説明ができるように、つくってまいりたいと思いますので。

【部会長】 大分時間も経過しておりますけれども、これでご発言がないということであれば、総合評価シートの採点にいきたいと思うんですけれども、どの段階で配りますか。

【今井経済部長】 今、配付させてください。

【部会長】 今、お手元に配られたペーパーで、私のほうから説明することになっておりますので、申し上げます。

「2 総合評価」、(1)というところがありますね。その(1)の中の各項目についての評価欄に、これはS、A、Bで記入していただく。右側の「評価の理由」について、市の評価シート案以外の理由等がある場合は、記入いただくということです。

一番下の(2)次期指定管理者の選定に向けての意見、この欄には、ご意見等がある場合は記入いただくということになります。

だから、必要最低限度、評価のS、A、Bですね。評価の理由、それについて加えるのであれば加えていただくし、次に、一番下のご意見があれば書いていただくという作業になります。

この記入が終わった方から、一旦休憩ということになります。評価シートを提出いただいて、休憩に入ってください。

休憩をどのぐらいの時間をとるか、今の進行ぐあいも加味して、どうしましょうか。

【柿崎経済企画課長】 20分ぐらいとらせていただきまして、11時半から再開ということであれば、お願いいたします。

【部会長】 では、そのようにいたしましょう。お願いします。

(休 憩)

【部会長】 それでは、再開いたします。

取りまとめいただいた意見案について、事務局より説明をお願いいたします。

【柿崎経済企画課長】 初めに、総合評価についてご説明いたします。

評価の案は、お手元にお配りしたとおりです。なお、各項目の評価は、委員さんから提出いただいた評価を平均したものでございまして、総合ではAということになっております。

案に対して変更が生じたところは、2の(1)利用促進の方策のところ、市の案としてはSでしたが、こちらがAに、また、(4)の自主事業の効率的な実施につきましても、市の案がSに対しましてAに、また、3番、管理経費の削減につきましても、AからBにということで、この3カ所が変更となっているところでございます。

また、次期指定管理者の選定に向けての意見案といたしましては、記載のとおりとなっております。

イベント企画が利用料金収入の増加をもたらすよう、協力企業、協力団体、協力グループの小グループイベントを推進してほしい。当初の計画を、社会状況に応じて修正が必要なのではないか。管理運営事務が市という意識を持っていただきたいというような意見が、次期評価に向けて出されております。

次に、年度評価における委員の意見につきまして、事務局案を、すみません、これは口頭ですが、申し上げさせていただきます。

年度評価につきましては、おおむね適切に管理運営が行われていると認められるが、自主事業をはじめ各種事業の企画、運営などに当たっては、周辺施設などとの連携をはじめ、戦略的に取り組み、収支の改善につなげる必要があるという内容になっています。

なお、モニタリング関係につきましては、市側に対する意見ということで捉えさせていただきます、この単年度評価には入れておりません。ご了解ください。

もう一度申し上げます。

おおむね適切に管理運営が行われていると認められるが、自主事業をはじめ各種事業の企画、運営などに当たっては、周辺施設などとの連携をはじめ、戦略的に取り組み、収支の改善につなげる必要がある。

【部会長】 ただいまの説明に対しまして、何かご意見等がございましたら、ご発言をお願いします。

1点、私のほうからお尋ねしますけれども、3の評価ですけれども、管理経費の削減、数字の3、配付されたときの総合はAだったのがBに変わった。これは、最初はAで、各項目はA、B、B、変わりがないんですけれども、これはどうしてなんですか。

【柿崎経済企画課長】 すみません、もとの表から間違っていたという。

【部会長】 配付された資料のほうが、Bとすべきものを誤植でAになっていたと。

【柿崎経済企画課長】 Aになっていたと。

【部会長】 はい、了解しました。

【柿崎経済企画課長】 すみません、恐れ入ります。

【部会長】 ご意見、ほかにございませんでしょうか。

【委員】 確認なんですけれども、次期指定管理者の選定に向けての意見の、当初の計画は社会状況に応じて修正が必要なのではないかというのは、具体的にはどういうことでしょうか。

【委員】 すみません、多分、私が言ったことだと思うんですけれども、言いわけに、例えば雨が、天気がどうのこうのとか、あるいは、社会の状況がどうの、例えば震災だとか、そういうので言いわけだけになっているので、それだったら、そこでだめだというのがわかっているのであれば、やっぱり当初の計画でやったのを修正したほうが、そこで下方修正とか何とかしたほうがいいので、そうしないと、いつまでたっても目標には到達しないということになってしまいますのでというようなことなんです。

もう一つは、評価をどちらにするかがよくわからなかったんですね。5年間の計画と比べて評価すると、六十何%しか達成していないということになるわけですが、対前年でやると、ほほうまくいっているよみたいなことになって、評価の仕方が2つ出ていたんじゃないかなと。ですから、実情に沿った形での目標値にしたほうがきちっとした評価が、それはもちろん、下方修正するときには全員のコンセンサスを得た上で当然、勝手に落とすとよくないわけで、目標達成できるような評価にわざわざ勝手に落としてしまうということはある得ないわけで、全体が納得の上で成り立つようなものは、

ちゃんと目標値としてあって、それに何%いくかという。だから、計画の中には、1% 上乗せとかと書いてあるので、ほとんど意味がないんじゃないかなという気がして、5 年間の計画でやっていくとですね。

そういうところ、国の事業とか、みんなそうですけれども、震災があったときはみんな修正したりしていますので、それも可能にしたほうがわかりやすいのではないかなと思って、もちろん、これをしろというのではなくて、そういうのも検討してほしいということですね。

【委員】 わかりました。ありがとうございます。

【部会長】 今の意見を踏まえてですけれども、そういう背景というか、考えのもとに述べられた意見をこういうふうにまとめられた。つまり、次期指定管理者の選定に向けての意見として、この1行にまとめられているんですけれども、これはどうなんですか、これでよろしいんですか。あまり大きく変更はしたくないんですけれども、当初の計画を各年度単位で修正できる方法も考えるべきではないかとか、そのようなことに、どうなんですかね。

必要なのではないかとすると、次期管理者選定に向けての意見というのは、この表現でよろしいというのだったら、私、問題ありませんけれども、言わんとする趣旨がそうだとすれば、何か言い足りないというか、質問が出そうなのとか。

【委員】 ちょっと難しい。計画そのもので言うと、例えば、5年であれば3年で見直しするとか、そういうやり方も当然あるわけで、その辺の根本的なところ、今、どれが一番いいというのは言えませんので、その辺を、次にやるときまでに検討の余地があるんじゃないかなということなんですよ。今ここでどうこうと、ちょっと言いにくいんですけれども。

【部会長】 当初計画に拘束されず、途中での修正も、社会状況において必要ではないか。5年なら5年の途中でも修正が必要なのではないかというぐらいの訂正だと、意味が伝わるような気もするんですけれども、いかがでしょうか。訂正の必要がないのであれば、私はそれでいいと思うし、一言、二言で、もっとニュアンスがうまく伝わるようなものであれば。

【委員】 当初の計画の意味が2つ出てきて、5カ年の当初という意味と対前年の当初という意味と、2つ出てきちゃうんじゃないかなと。それがいつもあるから、評価の仕方が難しいところがあるんじゃないかなというか、両方の評価が出てきちゃっているところがあるんじゃないかなと思って、当初というと、その当初がいつなのかということですね。

だから、ここで言いたいのは5カ年計画のことなんですよ。5カ年計画の途中で、社会状況で、もうとても不可能だという状況に陥った場合には修正も必要だろうし、あるいは最初から、今のこの時代、5カ年では長過ぎるので、3年で一回見直しを行うというようなことを最初からもくろんでおくとか、そういうのも必要じゃないかなということなんですね。

【部会長】 事務局、いかがでしょうか。

【今井経済部長】 当初計画、指定管理をかける5カ年の計画を修正できるかどうか

という話に関しましては、この施設だけではなくて、市全体の指定管理者制度にもかかわることですので、ご意見としていただきまして、担当しております業務改革推進課と調整してまいりたいと思います。

次回、公募の条件を出すときに、どういう表記になるかわかりませんが、ご意見を踏まえた形で、どのように対応したかということをご説明したいと思います。

また、先ほど来ご指摘がある、どちらで評価をするかの話になるんですけども、結局、5年間の当初計画、5年前の当初計画を今やっているの、確かに状況は変わってしまっておりますので、そこで評価をするというのはかなり難しいところもあると思います。

といいながら、5年間ということで、こちらのほうが指定管理料も出しておりますので、そこも捨てがたいということですので、ちょっと中途半端な言い方になるかと思うんですけども、そちらと、それから対前年度、両方で総合的に評価をせざるを得ないのかなということでございます。

そういった意味もございますので、今、委員からご指摘がありましたとおり、当初の計画自体を完全にフィックスするのではなくて、評価に当たって多少考慮するとか、そういったところは必要なのかなと思っています。

いずれにいたしましても、できるか、できないか、そこらあたり、業務改革推進課のほうと調整をして、次回、ご説明させていただきたいと思います。以上でございます。

【部会長】 という、意見としてはこの表現で伝わるということによろしいですね。

【今井経済部長】 そうですね。次期指定管理の意見ということですので、当初というのは5カ年というふうにご理解をいただきまして、もしこれでよろしければ、はい。

【部会長】 わかりました。

【副部会長】 今の関連ですけども、途中で変えるということは、指定管理委託料も途中で変えられると。例えば3年で、あと4年、5年目というのは変えられるのは、今の法律等では可能なんですか。

【今井経済部長】 現状の制度上は、5年間で指定管理料を算定いたしますので、年度の途中で指定管理料を変えることはかなり困難だと思っております。それは、財政的な意味もございます。

ただ、突発的に、例えば今回の大震災のようなことがあれば、指定管理の変化はありますので、その変化理由の大小といいますか、そこで可能性がないとは言えませんが、基本的にはかなり難しいということですね。

ですので、評価に当たって、例えば年度当初つくったにもかかわらず、さまざまな条件が重なってしまって、なかなか伸びないというあたりは、その辺を加味した評価をすることによって、管理料は変わりませんが、管理が適正にされているか、あるいは足りないかというようなところの文言的な表現にはなっていますが、それであらわすしかないのかなという感じでございます。

一応、5年間、この条件で指定管理を引き受けるということで、いわば先方のほうから管理料を提案してもらっていますので、それをなかなか安直に変えることはできないということですね。

【部会長】 それでは、千葉ポートタワーにおける指定管理者による施設の管理運営に関して、総合評価につきましては配付された総合評価シートにある内容、年度評価につきましては、先ほど口頭で述べていただきました内容をもって、当部会における意見として決定してよろしいでしょうか。

(「異議なし」の声あり)

【部会長】 異議なきものと思います。それでは、その旨を決定いたします。

なお、事務局におかれましては、今回、部会から出されたご意見を十分参考にし、管理運営の基準や審査基準等を作成していただきますよう、お願いいたします。

千葉ポートタワーについては以上です。

なお、本日、部会として決定しました意見の文言の整文等につきましては、私にご一任願います。

以上をもちまして、平成27年度第1回千葉市経済農政局指定管理者選定評価委員会観光部会を閉会いたします。

それでは、事務局に進行をお返しいたします。

【柿崎経済企画課長】 長時間にわたり、ご審議ありがとうございました。

事務連絡なのですが、まず、本日の議事録を作成する関係でございますが、後日、皆様に内容のご確認をお願いする予定でおります。案を作成し次第、事務局よりご連絡申し上げますので、どうぞご協力のほど、よろしくお願いいたします。

また、第2回観光部会のほうですが、8月12日、水曜日を予定しております。本日と同じ議会棟ですが、ここは第3委員会室というんですが、この隣の第4委員会室のほうをとっておりますので、そちらで行わせていただきたいと思います。

公募を行う千葉ポートタワーの募集条件などの審議を行う予定でおりますので、第2回目につきましても、どうぞよろしくお願いいたします。

予定時刻を大分過ぎてしまったんですが、何とか昼前に終えることができました。委員の皆様につきましては、本日、お疲れさまでございました。どうもありがとうございました。

—— 了 ——